

次期学習指導要領 1枚まとめ｜小学校

# 生活 小学校

**体で感じて、表して、気付きを深める教科へ**

**10秒でいうと**

**目標を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に。動物は借りて飼うのも学校飼育と同等**

生活科は、AIでは代わりができない「実感を伴う知」を育てる教科として、意味を整理し直す方向です。目標の言葉は「具体的な活動や体験」から「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案です。体で感じる体験と、言葉や絵で表す活動を行き来させます。他教科とのつながりを1年間の計画で示すことや、動物飼育の柔軟な扱いも示されています。

## 1 体験と表現を行き来する学びに

目標の柱書（目標の最初の文）を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に改める案です。体験で感じ取ること（内化）と、言葉などで表すこと（外化）を行き来させるねらいです。水やりの体験を言葉や絵で表すと、「成長には水が必要」と自覚できる、という例が示されています。P202 P203

**授業では** アサガオの世話のあとに、絵や動作で様子を表して友達と伝え合う。そんな時間をセットにした単元が考えられます。

## 2 他教科とのつながりを1年間で計画する

合科的・関連的な指導（教科を合わせたりつなげたりする指導）が、入学直後だけで終わりがちだと指摘されています。そこで、生活科を結び目にして、各教科とのつながりを年間指導計画などに書き込む方向です。スタートカリキュラムの期間は、学校の実態に合わせて柔軟に決めてよいと明確にする方向です。P201 P206

**授業では** 町探検で見つけたことを、国語の「話す・聞く」や算数の「数で捉える」と結び付けます。その関係を年間計画に印で示す工夫が考えられます。

## 3 9つの内容は組み合わせて、2年間で見通す

内容（1）～（9）を決まった形で同じだけ扱うのではなく、学校の実態に合わせて工夫することが重要とされています。複数の内容を組み合わせた単元や、2年間を見通した活動にする工夫が示されています。社会科や理科の先取りではなく、中学年以降につながる気付きを大切にする方向です。P207

**授業では** 秋の公園で木の実を集める活動と、その木の実を使ったおもちゃづくりを1つの流れにつなげる、といった単元が考えられます。

## 4 動物飼育は「借りて飼う」なども同じ扱いに

動物飼育は、AI時代にこそ大切な体験として引き続き重視されます。学校で飼うことを基本としつつ、ほかの持ち主から借りて飼うこと（ホスティング）も同等の扱いと明確にする方向です。世話の体制が難しい場合は、近くの動物施設の動物と続けて触れ合う方法も同等とされています。P208

**授業では** 休日の世話が難しい学校では、近くの動物施設に何度か通い、同じ動物の変化を観察カードに記録する、といった活動が考えられます。

### ほかにも変わること（小学校）

- 目標の柱書が「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に P202 P203
- 架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラムの関係を整理 P206
- 他教科とのつながりを1年間の計画で「見える化」 P201 P206
- 内容（1）～（9）を均等に扱わず、組み合わせた単元や2年間の見通しで P207
- 評価は観点別評価、「学びに向かう力」は個人内評価 P210
- 動物飼育は借用や施設との触れ合いも「学校での飼育と同等」に P208
- 外部人材・地域との連携を1回きりにしない P209
- 中学年以降の社会科・理科・総合へのつなぎ方 P207

**原田英語.com 次期学習指導要領ナビ**｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。